



2017 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 最終戦  
第49回MFJグランプリ  
スーパーバイクレース in 鈴鹿

TOHO Racing レースレポート  
JSB1000クラス #104 山口 辰也

11月4日(土曜日) 天候：曇り 路面:ドライ

公式予選 /RACE1：2' 07"279 9番手

RACE2：2' 06"695 5番手

11月5日(日曜日) 天候：快晴 路面:ドライ

決勝/RACE1：6位(7周) RACE2：6位(20周)

開催地：三重県・鈴鹿サーキット(1周=5,821km)

入場者数：28,000人(土・日合計)

2017年シーズンも11月上旬を迎え、三重県・鈴鹿サーキットで最終戦が開催された。今年もJSB1000クラスは、2レース制で行われる、レース1は8周、レース2は20周という変則パターン。MFJグランプリと冠がつき、ボーナスポイントが3ポイントつくだけにノーポイントだけは避けたいところ。事前テストはなく、木曜に設けられた特別スポーツ走行から最終戦鈴鹿のレースウィークはスタートした。

マシンセットは、前戦の岡山からの流れと、鈴鹿8耐、鈴鹿2&4レースでのデータを融合させながら進めて行く。初日は、2本目のセッション終盤に入ろうかというところで最終コーナーでハイサイドに遭い、マシンから振り落とされそうになりながらも何とかこらえながらホームストレートで減速して転倒。セッションは赤旗中断となったが、マシンもライダーも軽傷だったことは不幸中の幸いだった。木曜日は2本目に転倒もあり、1本目の2分08秒681がベストだったが、金曜日には、2分07秒669までタイムを縮め、電子制御、パーツやタイヤなども、いろいろ試すことができ、順調にマシンセットを進めることができていた。

ノックアウト方式で行われた公式予選。Q1でレース1の11番手以下とレース2の、Q2でレース1の上位10台のグリッドが決まる。トップ10に残るためには、2分06秒台に入れるのは、マスト要件となっていた。これまで2分07秒を切ったことはなく、2分06秒台に入れることは、今回の目標の一つとなっていた。

30分間で行われたQ1は、開始直後にアタックに入り、自己ベストを大幅に更新して行く。ここで2分06秒台をマークするがアクシデントが発生する。転倒者がありコース上にマシンとライダーが残ってしまったため赤旗中断となってしまう。そのため2分06秒台のタイムは抹消。何としても2分06秒台に入れておきたかったこともありニュータイヤに更新し、再開後にタイムアタックに入ると、2分06秒695をマーク。Honda ユーザートップの5番手でレース2は、スタートすることになった。そのためQ2では、ユーズドタイヤしかなかったこともあり2分07秒台を切れず9番手となっていた。

レースウィークは、4日間とも天気にも恵まれJSB1000クラスは、全てドライコンディションとなった。日曜日の気温は下がったものの日中は、まずまずの暖かさとなり観戦日和となっていた。山口は、朝のウォーミングアップ走行で最後の確認を行い、レース1のグリッドに向かった。

当初8周で行われる予定だったレース1だったが、スタート直前のウォームアップランでストップしたマシンがありディレイ。ただでさえ短い周回数が、さらに1周減算され7周で行われることになる。9番手グリッドからスタートした山口は、オープニングラップを10番手で終えると序盤の混戦の中、オーバーランもあったが1台、また1台とかわしポジションを上げて行く。6周目には津田選手、ラストラップには加賀山選手を東コースでかわし6位でチェッカーフラッグを受けた。レース2も一時、オーバーランしポジションを11番手まで落とすが、そこから追い上げ6位でゴールした。



#### JSB1000 ライダー/監督 山口辰也コメント

「最終戦は両レースともコースオフがあり、そこから追いつけての6位でした。シーズン前半戦は、トラブルや転倒も多く厳しいシーズンでしたが、鈴鹿8耐を挟み、TOHO Racingのメカニックさんが戦えるマシンに仕上げてくださいました。目標であった2分06秒台にも入りましたし、まだまだマシンは発展途上なので、来シーズンに向けてポジティブな要素がたくさんあります。2017年シーズンも多くの皆様のご協力に感謝いたします。来シーズンは、さらなる飛躍を目指してTOHO Racingは努力を続けますので、引き続き応援よろしく願いいたします」

#### チームメカニック 戸井田剛コメント

「最終戦に関しては、目標としていた2分06秒台に入りましたし、順位的にも満足行くものではありませんがレースウィークの流れは悪くなかったと思います。今シーズンは、ニューマシンを投入し、タイヤが17インチになったこと前半戦は、トラブルや転倒も多く、なかなか思うようにマシンを仕上げられずにいました。鈴鹿8耐から、ようやくトラブルもなくなり普通に進められるようになってきていました。これもHondaさん、ブリヂストンさん、DIDさん、ニューテックさん、KYBさんを始め、ご協力いただいた皆様のおかげです。ありがとうございました。来シーズンもよろしく願いいたします」

#### 総監督 福間勇二コメント

「今シーズンはマシンが新型となり、またタイヤが17インチになるなど、マシンを仕上げていくことに苦戦致しましたが、集大成として挑んだ最終戦では、目標としていた2分06秒台に入り、決勝は追いつきのレースとなりましたが、最後まで諦めずチーム一同全力で戦いました。今シーズンを戦い抜くことができましたのは、ご関係者皆様のご支援、ご協力によるものと心より御礼申し上げます。また、ファンの皆様にはいつも温かいご声援を頂き、誠に有難うございました」



株式会社 TOHO  
TOHO Racing  
担当:野口